

松嶋夜話 卷之下 38

〔原文〕先哲序於絶海和尚蕉堅稿曰

〔訓読〕先哲、絶海和尚の蕉堅稿に序して曰はく

※蕉堅藁：書名。二巻。南北朝時代の五山の詩僧、絶海中津の詩文集。

〔原文〕余與日本禪者游其氣質多不凡

〔訓読〕余日本の禪に遊ぶに、其の氣質の多きは凡ならず

〔原文〕第惜務外學尚吟哦

〔訓読〕第(た)だ惜しくは、外學を務め、吟哦を尚ぶ

〔原文〕於別傳直指之説

〔訓読〕別傳、直指の説に於いては

※教外別伝：經典にとられないことをいう。

直指人心：ただちに、人の心を指示せということ。ここで、人とは、自分のことである。あれやこれや、求めるのではなく、即今ただいまの自分自身をはっきり定めよ、ということである。

〔原文〕若不經意曰

〔訓読〕意を経せざるが如しと曰ふ

〔原文〕余每讀此語砭吾心肝

〔訓読〕余此の語を讀む毎に、吾が心肝を砭(はり)す

〔原文〕又近代永源一絲和尚之緇門寶藏集中記取唐僧批評日本禪者者一段

〔訓読〕又近代の永源の一絲和尚の緇門寶藏集中に唐僧の日本の禪を批評する一段を記取す

〔原文〕指誠知識者矣

〔訓読〕知識を指誠す

〔原文〕吁可讀蕉堅稿

〔訓読〕吁、蕉堅稿を讀むべし

〔原文〕不溫寶藏集乎耶

〔訓読〕寶藏集を溫めずや